

意志のモダリティを表す「会」の意味機能

孫 樹喬

〔抄 録〕

モーダル動詞の「会」は一般に「能力」「蓋然性」を表す表現とされている。しかし、実際の使用において、話し手の意志を表す表現に「会」が多く見受けられる。本論文は意志のモダリティを表す「会」に焦点を当て、その意味機能の特徴を明らかにすることを目的としている。意志表現の「要」及び動詞無標形との比較を通じて、話し手の意志を表す「会」の意味機能の特徴が次の通りであることが明らかになった。まず、「会」による話し手の意志の形成は聞き手の存在がきっかけとされている。次に、「会」による意志の発話は聞き手に行為の実行を約束する発話の機能を持つ。最後に、「会」による話し手の意志は、行為の実行を発話時以後のある時点に預ける傾向が見られ、曖昧性を持つ表現となる。意志のモダリティを表す「会」は基本的に「蓋然性」を表す「会」から派生したものであるが、意志表現の体系において重要な役割を果たしていることが否定できない。

キーワード 「会」、意志のモダリティ、「要」、動詞無標形、聞き手

1 はじめに

日本語の動詞基本形、いわゆる「スル」形式は従来意志のモダリティを表す中心的な表現としてしばしば取り上げられている（仁田1991 ab、森山1990、安達1999）。次の例(1)、例(2)のような表現は日常生活でもよく見受けられる。

- (1) 留学に行きますか？ 行きます。⁽¹⁾
- (2) 明日のパーティに参加します。

「スル」形式は本来意志を表す形式ではないが、例(1)、例(2)のように話し手の未実現の意

志的行為に言及する場合は、話し手の意志を表す表現になる。意志のモダリティを表す「スル」形式は、基本的に「必ず聞き手が必要だ」とされている（森山1990）。「スル」の機能について、安達(2002)では次のように述べている。

その機能としては、発話現場における宣言という伝達態度を表す<意志の宣言>、心内において意志の実行を確認することを表す<決意の確認>がある。（安達2002：40,41）

更に、「スル」による意志の特徴として、森山（1990）では「決定済みの判断」とし、益岡（2002）では発話時に形成された意志（「決意」と呼ぶ）と発話時以前に既に定まっている意志（「既定の意志」と呼ぶ）の二つがあるとしている。

筆者は意志のモダリティを表す表現について日中対照研究を行っているなか、話し手の意志を表す「スル」形式を対象に、その中国語の対訳形式を調査した。調査の具体的な内容は、『白夜行』⁽²⁾『博士の愛した数式』⁽³⁾『世界の中心で、愛を叫ぶ』⁽⁴⁾の三つの小説の会話部分に現れる「スル」形式⁽⁵⁾を抽出し、その中国語翻訳版の表現と照り合わせ、中国語表現の形式を統計するものである。三つの小説の日本語版に現れた意志を表す「スル」の用例の数量は、それぞれ『白夜行』100例、『博士の愛した数式』25例、『世界の中心で、愛を叫ぶ』20例である。調査の結果は次の表1のようにまとめられている。

表現タイプ		会	要		動詞無標形 ⁽⁶⁾				
内 訳		会	要	要～了	成分補 充なし	文末に 「了」	文末に 「吧」	時間副詞	そのほかの 成分補充 ⁽⁷⁾
用例数	各	23	6	5	17	20	4	14	56
	合計	23	11		111				

表1 意志のモダリティを表す「スル」形式の中国語対訳形式

表1について少し説明しておきたい。表1では「スル」形式の中国語の対訳表現を、助動詞の「要」「会」が使われる有標形式か、またはモーダル動詞が使われていない動詞無標形かという基準で、大きく三つの部分に分けた。動詞無標形の部分では、日本語原文と比べて中国語の訳文にはどんな成分が補充されているかによって、更に細分化した。動詞無標形の用例について、3で詳しく見ることにするが、ここでは、まず話し手の意志を表す「スル」形式の対訳形式には、意志・願望を表す典型的な表現の能願動詞「要」と比べて、一般的に「蓋然性」を表す表現とされる「会」のほうが圧倒的に多くみられる事実注目したい。具体的には、次のような用例があげられる。

- (3) 靴を磨く私に向かい、何度も博士は念押しした。

「いいね、君も一緒なんだからね。散髪の中に、勝手に帰られたりしたら困るんだ」

「はい、大丈夫ですよ。お供します」

『博士の愛した数式』

中国語版

博士对着正在擦皮鞋的我反复叮嘱道，

“说好了，你可一定要跟着我。要是理发的时候，你偷偷跑回来了，我怎么办？”

“好的，您放心，我会陪着您的。”

《博士的爱情算式》⁽⁸⁾

- (4) 「このことを社長には……」

「明日、俺から話しておく。こんな時間に電話で叩き起こされるのは、ご老体には辛いだろうからな」

『白夜行』

中国語版

“这件事社长那边……”

“明天我会说一声。这个时间再打电话过去，他老人家的身体怕吃不消。” 《白夜行》⁽⁹⁾

- (5) 「すみません。あの……言い訳にはならないと思うけど、本当にこのところ忙しくて……迷惑かけて、悪いと思っている」

「商売繁盛で結構なことだね」自分の口元が醜く歪むのを、誠は自覚した。

「そんな言い方しないで。ごめんなさい。これから気をつけます」雪穂はエプロンの上
に手を置き、頭を下げた。

『白夜行』

中国語版

“对不起。我……虽然不成理由，可是最近真的很忙……给你添麻烦，我真的很抱歉。”

“生意兴隆，真得恭喜啊。”诚知道自己的嘴角难看地歪向一边。

“别这么说。对不起，以后我会注意的。”雪穂双手放在围裙上，低头道歉。 《白夜行》

話し手の意志を表す「会」は、小説のなかに限らず日常生活にもよく使われている。しかし、先行研究には、このような「会」についての記述はそれほど多くない。呂（1980）の『現代漢語八百詞』では、助動詞の「会」について、次のように説明されている⁽¹⁰⁾。

1. 懂得怎样做或者有能力做某事（どうすればよいかわかっている、…する能力がある）。
2. 善于做某事。（あることをするのが得意である）
3. 有可能。表示将来的可能性，但也可以表示过去的和现在的（可能性がある。普通未来の可能性を表す。過去・現在の可能性を示してもよい）。

また、劉（2001）では能願動詞「会」の意味について、「1.表示经过学习而后具有某种能力（習得によって能力を身につけることを表す）。2.表示可以实现，已然、未然的情况都可以用（実

現できることを表す、已然の状況についても、未然の状況についても用いることができる）」としている。相原（1996）では、能願動詞の「会」が「能力・許可」及び「蓋然性」の意味カテゴリーで検討されている。

「会」の使い方について、上述のような考え方は主流となり、意志を表す「会」の用法は一般的に「可能性（蓋然性）」の「会」からの派生用法とされ、それほど注目されていなかった。従来の研究において、意志を表す「会」を言及したものが数少なかった。そのなか、呉（2011）、王・馬（2011）は通時的な観点から「会」を研究し、「主観願望」を表す「会」の存在を認めている。

現代中国語の文法研究では、「会」の意志を表す用法について、彭（2007：143）では、このような「会」は話し手が事態の実現を約束する、更に言えば、話し手の自分のdeontic能力で文に現れる事態を未来のある時点に実現させることを約束するという意味を表していると述べている。王其莉（2016）では、「…当該事態は『一人称動作』である場合、“会”には『意志』の意味も派生すると思われる。これらの派生意味は、文脈が“会”に託した意味であり、“会”が本来持つ意味ではない。」と述べている。

上述の先行研究から明らかになったように、「会」の意志を表す用法についてその存在が認められているが、その特徴及び「会」のほかの意味との関係について詳しく研究されていない現状である。本論文は「会」が意志表現としても多く使われている事実を受け、話し手の意志を表す「会」を中心にしていきたい。主に、次のいくつかの問題を解決していきながら論を進めていきたいと考えている。

- ①「会」は何故意志を表すことができるのか。
- ②意志を表す「会」の意味・機能及び特徴は何か。
- ③意志を表す「会」をどのように位置づければいいのか。

本論文の内容は、次の通りである。2では「会」が意志のモダリティを表す表現として成り立つ要因を探る。3では、「会」の用例を取り上げながら、話し手の意志を表す「会」の意味機能を考察する。更に、意志を表す「要」などの表現との対照を通じて、意志を表す「会」の特徴を明らかにする。4では、話し手の意志を表す「会」は意志表現の体系ではどんな役割を分担しているか、更に話し手の意志を表す「会」と蓋然性を表す「会」との関係を考える。

本研究は話し言葉を考察対象にしているので、用例も話し言葉のものに限定することを断っておきたい。

2 「会」は意志表現として成立する前提条件

本節では、まず意志のモダリティを表す文の意味的構造の特徴を考察したうえで、「会」が話し手の意志を表す時の意味的条件を検討する。

2.1 意志のモダリティを表す文の意味的構造

益岡 (2007) では「文の基本的構成の基本を、事態を表す領域と話し手 (表現者) の態度を表す領域という二つの領域からなるものと見る。これらの領域をそれぞれ『命題』、『モダリティ』と呼ぶことにする」とされている。意志のモダリティを表す文が成立するのに、特定の命題条件とモダリティ条件に満たす必要がある。例えば、「学校に行く。」のような表現は、話し手の意志を表す場合、命題部分では「動作主は一人称主体」、「動詞のアスペクトは未完成」「テンスは現在 (将来)」「意志動詞」という条件が必要とされ、モダリティ部分では「意志を表すモーダルマーカ―」が必要とされる。従って、どの言語にせよ、意志のモダリティを表す文として成り立つには、次のような条件が必要だと考えられる (但し、「スル」形式の場合、モーダルマーカ―は動詞そのものなので、モーダルマーカ―はゼロになる)。

命題条件：一人称主体

現在 (将来) 時制

未実現意志性動作

モダリティ条件：意志のモーダルマーカ―

「スル」の意志文の対訳形式に「会」が多く現れるのは、上述の命題条件が満たされる前提で、「会」が「意志のモーダルマーカ―」の役割を担っているからだろう。2.2では意志表現の「スル」形式の対訳形式に現れている「会」について見てみよう。

2.2 話し手の意志を表す「会」の成立する条件

まず、調査の結果から見ると、意志表現の「スル」形式の対訳形式に「会」が現れている23文のうち、動作の主体は一人称「我」の発話は21文、一人称複数「我们」の発話は2文である。すべての「会」文において、一人称主語が明示されている。上述のことから、「会」の意志文は話し手が事態の主体であることが前提とされていることが明らかになった。

次に、「スル」形式の対訳形式の「会」文は、例(7)～(9)のように発話時に未実現の事態を扱うものである。例(7)の「陪 (お供にする)」、例(8)の「说(話す)」、例(9)の「注意(注意する)」はすべて話し手のこれからの行為である。更に、これらの行為はいずれも話し手の意志でコントロールできるものである。

(7) 好的，您放心，我会陪着您的。

(8) 明天我会说一声。

(9) 对不起，以后我会注意的。

上述のことをまとめると、「会」が意志のモダリティを表すために、話し手が動作の主体で、発話時の未実現の意志的動作を扱う必要がある。形式上では、話し手の意志を表す「会」は意志性の程度副詞「一定（必ず）」「絶対（絶対）」との共起が多く、更に蓋然性を表す「会」と同様に文末に「的」がよく現れる。しかし、「的」がなくても、意味への影響は基本的にない。例(10)と例(11)を比較すると、発話者の語気の強さに多少相違が感じられるが、発話の意味から見れば特に相違はない。

(10) 我一定会好好儿学习的。

日本語訳：私は必ず一生懸命に勉強する。

(11) 我一定会好好儿学习。

日本語訳：私は必ず一生懸命に勉強する。

以上、「会」が話し手の意志を表す基本条件について考察を行った。次節では、中国語の意志表現の「要」や「動詞基本形」との比較を行いながら、意志のモダリティを表す「会」の意味特徴を更に深めていきたい。

3 意志を表す「会」の特徴

本節では、日本語の意志表現の「スル」の用例を取り上げ、なぜ対訳形式に「会」が現れたかを明らかにし、話し手の意志を表す「会」の意味機能の特徴を探る。その際、次の二点に注目したい。一つは、「会」の発話による意志がどのように生じたかという点である。もう一つは意志を表す「会」の発話はほかの意志表現と意味的にどのように違うのかという点である。3.1では、「要」との比較を通じて、まず「会」の意志形成の特徴を見ていきたい。

3.1 意志の形成から見る「会」と「要」

「要」は従来典型的な意志表現で、「表示有做某事的意愿(ある行為を行う意志願望を表す)」（劉月華等2001）とされている。単純に話し手の意志を表す場合、発話自体から見れば、「会」と「要」は特に大きな違いがないように見える。

(12) 接下来，我要告诉你一件事。

(13) 接下来，我会告诉你一件事。

例(12)と例(13)が両者とも「あなたに伝えたい事がある」という意味を表しているので、文レベルでは両者を区別することが難しい。ということは、「話し手の意志」を表す「要」と「会」

の相違を探るには、文レベルではなく、談話の中で考察する必要がある。

まず、「スル」の対訳形式に、「要」が用いられている用例を見てみよう。

(14) (章の冒頭)

「二、三日留守にする」秋吉が突然いいだした。

典子が風呂から上がり、ドレッサーに向かっている時だった。

「どこに行くの？」と彼女は訊いた。

「取材だ」「行き先ぐらい教えてくれたっていいでしょ」

秋吉は少し迷ったようだが、面倒臭そうに答えた。「大阪だ」 『白夜行』

中国語版：

“我要出去两三天。”秋吉突然说。当时典子刚洗完澡，坐在梳妆台前。

“去哪里？”她问。

“收集资料。”“跟我讲一下地点有什么关系？”

秋吉似乎有点犹豫，但还是一脸厌烦地回答：“大阪。” 《白夜行》

(15) 典子は相手に聞こえるようにため息をついた。

「いい加減にしてください。ここへ電話をかけてこられるだけでも迷惑なんです。もう切りますから」

「待ってください。では僕の質問に答えてください。あなたはまだあの男性と同棲しているのですか」

「えっ……」

「もしあなたがまだ彼と一緒に住んでおられるなら、どうしてもお話ししておかなきゃならないことがあるんです」

典子は受話器を掌で覆った。声を落として訊く。「どういったことですか」

「だからそれは直に会ってお話しします」彼女が関心を持ったという手応えを感じたか、男はきっぱりといった。 『白夜行』

中国語版：

典子故意大声叹气，让对方听见。“请别再这样了。你光是打电话来，就已经造成了我的麻烦，我要挂了。”

“请等一下。那么，请你回答我的问题：你还和那人同居吗？”

“嗯？”

“如果你还跟他住在一起，我一定得把这件事告诉你。”

典子用手掌遮住听筒，压低声音问：“什么事？”

“我要当面告诉你。”可能是感觉到这句话已引起她的关切，男子坚定地说。

《白夜行》

- (16) (野球のチケットを買ってきた母親は息子に野球を見たいのかを尋ねる時)

見栄を張っているのか、しばらくうつむいたまま、もぞもぞしていたが、やがて嬉しさをこらえきれなくなり、私の回りを飛び跳ねだした。

「観たい。誰が何と言おうと観たい。行くよ。絶対に行く」

『博士の愛した数式』

中国語版

可能想装装小小男子汉的派头吧，只见他低下头去半天不肯出声，还把身体扭来扭去，可终于再也忍不住心头的狂喜，围着我又跑又跳起来。

“我要看，不管谁说什么都要看！我要去，绝对要去！”

《博士的爱情算式》

例(14)の話し手の「留守する」という意志は、中国語に訳された場合、「要出去」となっている。これは前触れがなく、突然の発話であることに特に注目してもらいたい。例(15)も「要」が用いられているが、注目してもらいたいのは、「直に会って話す」という行為は、話し手の一方的な意志で、聞き手の「典子」にとって全く望んでいないことである。例(16)の「要」もやはり発話者の自らの強い要求や意志願望を表している。

例(14)～(16)から見れば、「要」による意志は聞き手とは関係なく、発話者の自らの要求や望みから生じたものだということが明らかになった。一方、「会」は違う振る舞いが見せている。もう一度冒頭の「会」の例文を見てみよう。

- (3) 靴を磨く私に向かい、何度も博士は念押しした。

「いいね、君も一緒なんだからね。散髪の中に、勝手に帰られたりしたら困るんだ」

「はい、大丈夫ですよ。お供します」

『博士の愛した数式』

中国語版

博士对着正在擦皮鞋的我反复叮嘱道，

“说好了，你可一定要跟着我。要是理发的时候，你偷偷跑回来了，我怎么办？”

“好的，您放心，我会陪着您的。”

《博士的爱情算式》

- (4) 「このことを社長には……」

「明日、俺から話しておく。こんな時間に電話で叩き起こされるのは、ご老体には辛いだろうからな」

『白夜行』

中国語版

“这件事社长那边……”

“明天我会说一声。这个时间再打电话过去，他老人家的身体怕吃不消。”

《白夜行》

- (5) 「すみません。あの……言い訳にはならないと思うけど、本当にこのところ忙しくて……迷惑かけて、悪いと思っている」

「商売繁盛で結構なことだね」自分の口元が醜く歪むのを、誠は自覚した。

「そんな言い方しないで。ごめんなさい。これから気をつけます」雪穂はエプロンの上に手を置き、頭を下げた。 『白夜行』

中国語版

“对不起。我……虽然不成理由，可是最近真的很忙……给你添麻烦，我真的很抱歉。”

“生意兴隆，真得恭喜啊。”诚知道自己的嘴角难看地歪向一边。

“别这么说。对不起，以后我会注意的。”雪穂双手放在围裙上，低头道歉。 《白夜行》

例(3)の「会」は聞き手の「散髪の間ずっと一緒だ」という要望に対する発話者の意志表明である。例(4)の「会」は、相手がどのようにすればいいかと尋ねてくるとき、発話者の自ら行為を行う意志を申し出る場面に用いられている。やはり、「会」による意志の形成は、聞き手に大きく関係している。例(5)の「以后我会注意的」は、聞き手の不満を知ったうえ、聞き手の要望に応えようとする意志表現である。この「会」の意志の形成も聞き手と大きくかかわっている事が否定できない。

更に、例(3)から(5)までの用例の「会」を「要」に置き換えることができない。何故なら、日本語原文では「スル」形式が表す意志を談話の流れから見ると、発話者自身の状況によって生じたものではなく、聞き手の要望など聞き手との関係づけから生じたものだからである。以上の分析を通じて、次の結論に辿り着いた。

要による話し手の意志 → 発話者の自身の要求や意志願望による意志

会による話し手の意志 → 聞き手がきっかけで形成した意志

3.2 聞き手への発話機能から見る「会」と「要」

前節では「意志の形成」の面から注目しましたが、本項では、「会」と「要」との比較を通して、話し手の意志を表す「会」の発話を持つ発話機能に注目したい。

例(14)、例(15)、例(16)から見ると、「要」による意志は発話者の一方的なものが多く、聞き手に意志の宣言をする表現になっている。一方、聞き手の協力が必要な場合は聞き手への働きかけの発話にもなる。

(17) (子供はアイスクリーム屋を見かけると、親に向かって) 我要吃冰激凌!

中国語訳：アイスクリームを食べたい!

例(17)のように子供が親に向かって「我要吃冰激凌」と発話する場合は、むしろ単なる意志宣言ではなく、親への「アイスクリームを買ってもらう」働きかけの発話にもなる。

一方、「会」による意志表現は、話し手が聞き手に向かって、対象動作の実現を約束するもので、聞き手に何らかの働きかけをすることは絶対ない。従って、話し手の意志を表す「会」文では、よく「放心（安心してください）」などの表現と共起する。

- (18) 陈娟，别难过。我不会让这混小子乱来的，你放心。这事儿我给你做主。对了，那个新来的
是个什么样的人哪。 中国ドラマ『曹社長の18人の秘書たち』⁽¹¹⁾

日本語訳：チェンジュエン、悲しまなくていい。あの青二才に好きなようにはさせません。安心しろ。この件は、私が仕切ってやる。そうだ、新しく来たのは、どんな人間？

- (19) (雇い主) 你家离这儿远不远啊？

(家政婦) 田老师，你放心，不管远近我都会准时到的。

中国ドラマ『田教授家の28人の家政婦さん』⁽¹²⁾

日本語訳：「おうちはここから遠いんですか？」

「田先生、安心してください、どんな状況でも時間通りに来ます。」

筆者が手元集めた用例を見る限り、聞き手への「行為の約束」という発話効果を持つ「会」の意志文は、聞き手にとって望ましいもののほうが圧倒的に多いが、望ましくない行為の場合もある。

まず「不会」の場合は、ある行為をしない「約束」になるが、あえて聞き手の望んだ事を絶対しないという宣言にもなる。

- (20) 董事长：阿华，我警告你，马上开除她让陈娟回这儿来。

曹华：爸，我今儿还把话跟您挑明了。要我做华美的总经理，秘书就得由我来自己来挑，我绝不会把陈娟调回来，更不会把孙咪调走。不但不调走，我还要娶她。

中国ドラマ『曹社長の18人の秘書たち』

日本語訳：

董事長：アーホア。お前に警告する。今すぐ彼女をクビにして、チェンジュエンをここに戻せ。

曹華：父さん、今日のはっきり言っておくよ。僕にホアメイの社長をやらせるなら、秘書は僕に自分で選ばせてくれ。僕は絶対にチェンジュエンを戻さないし、ス・ミーをクビにするなんてもってのほかだ。クビにしないだけでなく、僕は彼女を妻にする。

次に、聞き手が望ましくない行為であれば、「脅迫」という発話機能にもなりうる。今回の調査においては、「脅迫」の用例は出なかったが、実際の使用に次のような発言も考えられる。

(2) 我会让你后悔的！

日本語訳：絶対後悔させるよ。

以上の考察から、聞き手への発話機能から見た「要」と「会」の相違は次の通りである。

- 要による発話 → 聞き手への一方的な宣言となり、働きかける場合もある
- 会による発話 → 聞き手への行為の実行の約束となり、働きかけることはない

3.1と3.2の論述を踏まえ、意志表現としての「会」の最大の特徴は聞き手との関わりと言えよう。「会」による話し手の意志を表す発話と聞き手との関係について、次の図で表すことができる。

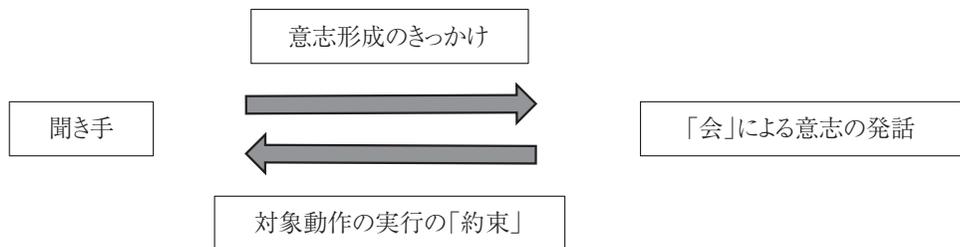


図1 意志のモダリティを表す「会」文と聞き手との関係

3.3 「会」による意志の発話と動詞無標形による意志の発話との比較

3.1、3.2では、話し手の意志を表す「会」を「要」と比較することによって、「会」による話し手の意志の特徴をある程度明らかにすることができたが、本項では、話し手の意志を表す中国語の動詞無標形が用いられる文との比較を通じて、意志表現としての「会」の特徴を更に考察したい。

表1で示されているように、「スル」の意志文の対訳形式には、意志のモダリティを表す「要」「会」のほか、中国語の動詞無標形が最も多く見られた。しかし、一概に動詞無標形に訳されていると言っても、動詞以外の成分を何も補充されないものと比べて、何等かの成分を補充される文のほうが圧倒的に多かった。

(23) 「海ね」

「でもあまり水の汚いところは嫌だぞ」

「うん、わかった。きれいなところを見つけて撒くよ」 『世界の中心で、愛を叫ぶ』

中国語版

“海对吧？”

“不过水太脏了我不乐意。”

“噢，明白了，找干净地方撒。”

《在世界中心呼喊爱》⁽¹³⁾

(24) 「行き先ぐらい教えてくれたっていいでしょ」

秋吉は少し迷ったようだが、面倒臭そうに答えた。「大阪だ」

「大阪？」

「明日から行く」

『白夜行』

中国語版

“跟我讲一下地点有什么关系？”

秋吉似乎有点犹豫，但还是一脸厌烦地回答：“大阪。”

“大阪？”

“明天就出发。”

《白夜行》

(25) 「桐原さん、あのひととどんな話をしているのかな。大体あのひと、何者なの？友彦さんは何か知ってるの？」

「うんまあ、それについては、ゆっくり話をするよ」そういって友彦はコートの袖に腕を通した。一言で説明できる話ではなかった。

『白夜行』

中国語版

“桐原跟那个人讲些什么啊？他究竟是干吗的？你知不知道？”

“嗯，这件事慢慢再告诉你。”说着，友彦穿上外套。这并不是三言两语讲得完的。

《白夜行》

(26) 「また連絡する」帰り際に彼はいった。

『白夜行』

中国語版

“我再跟你联系。”分手之际，他这么说。

《白夜行》

(27) 「私がケーキ屋さんまで走って、もらってきましょう」

エプロンをはずそうとする私を制して、ルートが口を挟んだ。

「僕が行くよ。僕のほうが足が早いんだから」

『博士の愛した数式』

中国語版

“我跑到蛋糕店去拿回来吧。”

我正要解下围裙，平方根拦住了我，插嘴道：“我去吧。我跑得比你快。”

《博士的爱情算式》

(28) 「なんでそんなにトイレットペーパーばかり買うんや」

「そんなこと説明してる暇ないわ。とにかく行ってきます」カーディガン姿の克子は、財布を手に慌ただしく出ていった。

『白夜行』

中国語版

“买那么多手纸干吗？”

“现在没空跟你解释，我先出去了。”穿着开襟羊毛衫的克子拿起钱包匆匆出门。

《白夜行》

例 (23) は「成分補充なし」の用例で、例 (24) から (26) は文中に「就」「再」などの時間副詞や人称代名詞などを補充された用例で、例 (27) は「吧」が補充された用例で、例 (28) は「了」が補充された用例である。

何故話し手の意志を表す中国語の動詞無標形が使用される時、成分の補充が多くみられるかについて、孫 (2014) では説明されている⁽¹⁴⁾。ここで注目したいのは、動詞無標形による意志文と「会」による意志文との意味機能の相違である。

上述の例文を見る限り、動詞無標形の意志の発話は、「马上」「就」など「すぐ」の意味を表す時間副詞との共起が多く、動作を確実に且つ短時間内実行する姿勢を見せている。一方、「会」による意志の発話はこのような特徴を持っていない。前節で挙げた例 (3) ～例 (5) のように、話し手が聞き手に行為の約束をしているが、行為の実行は発話の場面で考えるのではなく、将来のある場面に預ける傾向がみられる。この点について、彭 (2007) でも言及されている。次の例文を比較してみよう。

(29) 我会告诉你一件事。

私はあることを伝える。

(30) 我告诉你一件事。

私はあることを伝える。

(31) 我要告诉你一件事

私はあることを伝えたい。

例 (29) ～ (31) を比較してみよう。例 (30) と (31) は発話時にすでに実行しようとする姿勢を示しているが、一方、例 (29) は、「伝える」という行為は発話時では行わないニュアンスをほのめかしている。このようなニュアンスの違いは何を意味しているのだろうか。

話し手の意志を表す動詞無標形や「要」は話し手の意志を表出すると同時に、その意志による行為の実行へ移る姿勢も示している。しかし、「会」による意志のモダリティの発話は意志を表出するとき、動作の実行へ移る姿勢を示さず、むしろ行為の実行をあえて発話場面と違う発話時以降のある場面に預けるのである。すなわち、「会」による話し手の意志を表す発話は、動詞無標形や「要」のような確実に実行しようとする意志表現ではなく、未確定な部分を持つ曖昧的な表現となる。この曖昧性は、話し手の行為を実行する責任に伴う負担を軽減すると同時に、行為の実行や事態の実現を約束することで聞き手との関係を保つことに有効的である。このような性質は、まさに蓋然性を表す「会」の特徴と深く関わっている。意志のモダリ

ティを表す「会」と蓋然性を表す「会」の関係について、次節で詳しく検討する。

4 話し手の意志を表す「会」の位置づけ

本節では、話し手の意志を表す「会」について、意志表現の体系における位置及び蓋然性を表す「会」との関係から考察する。

4.1 意志表現の体系における位置

王（2011）では、「意志」の「会」は派生的なもので、「“会”がなくても文が成立し、そして文の意味も変わらない場合がある。これは、“会”が『事態が生起する』と述べるものであり、実質的な意味をほとんど持っていないため、文脈の意味が付着しやすいからである」とされている。その説明の中で、次のような例を取り上げた。

(33) 尊敬的律师先生，我是怀着对法律的敬意和对您的职业和对您本人的敬意前来求教的。请不必暗示，我会按时付钱。

尊敬する弁護士先生、わたしは法律に対する敬意と先生の職業及び先生御本人に対する敬意を抱いて、助けを求めに参ったのです。遠回しにおっしゃらなくても、金はきちんと支払います。（王 2011）

例(33)は確かに「会」が削除されても成り立つが、発話の意味には変化が生じると考えられる。「会」がなければ、単なる話し手の行為を行う意向を表現するものとなり、聞き手に金を支払う行為を約束する意味が弱くなってしまふのである。更に、動作の実行は即刻行うことになるのである。

中国語の意志のモダリティを表す表現は、動詞無標形や「要」のほかに、能願動詞の「想」「愿意」「肯」「敢」も挙げられる。しかし、「聞き手へ行為の実現を約束する」という発話の意味及び3.3で述べた意志表出の曖昧性は意志のモダリティを表す「会」に特有なもので、ほかの意志表現に見られない。

4.2 「蓋然性」を表す「会」との関係

話し手の意志を表す用法が「蓋然性」を表す「会」の派生的な用法であることは言うまでもない。「会」はそもそも「可能表現」で、そこから事態の実現の「可能性」を表す表現となり、実際の使用において、「会」の対象動作は一人称動作主で且つ未実現の意志的な動作の場合、意志表現になったのである。このような能願動詞に多様性が見られるのは実は一般的な現象である。例えば、助動詞の「要」も「意志・願望」の意味や「推測・判断」「当為」などの意味

を表す多義的な表現である。

話し手の意志を表す「会」と「蓋然性」を表す「会」との派生関係は形式上にも意志機能上にも見られる。まず、「蓋然性」を表す「会」と同じように、話し手の意志を表す「会」も「会…的」という形で使われている。ただし、2節ですでに述べたように、「会」による話し手の意志を表す発話の意味機能は、文末の「的」の有無によって影響されることはない。

(34) 我考虑过后果，我会为我的行为负责的。

私は結果を考えた。自分の行為に責任を持つ。

語的には少ないが、「是会…的」という形も見かける。

(35) 我求你，别这样对我，我是不会放弃你的。 中国ドラマ『曹社長の18人の秘書たち』

お願い。私にそんなふうにしなないで、私はあきらめないわ。

次に、意味機能の面において見てみよう。王 (2015) で「(可能性を表す) 会」の本質について、「ある条件のもとで、事態が生起する」と述べられているが、本論文の意志を表す「会」の特徴もこれに一致していると思われる。というのは、意志の「会」が使用される時、聞き手の存在及び聞き手の態度という前提が必要とされ、これは広く見れば、一種の限定条件とみなすこともできる。更に、行為の実行を約束する一方、行為の実行を未来の場面に預ける特徴も、ある意味で「未来の可能性」を表す表現と言える。但し、可能性を表す「会」は省略できる場合があるが、意志のモダリティを表す「会」は基本的に省略できない。

5 終わりに

本論文は「会」の意志を表す側面に着目し、考察を行った。「会」による話し手の意志を表す発話は、次の特徴を有している。

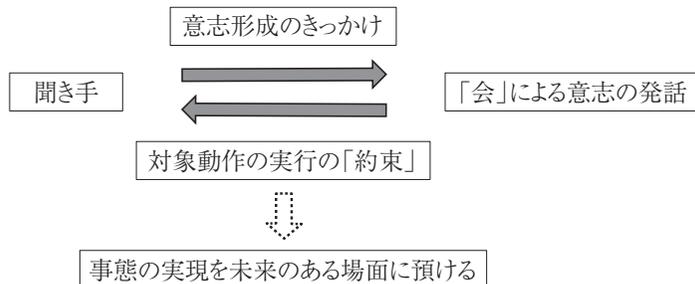


図2 意志のモダリティを表す「会」の意味機能の特徴

- i. 話し手の意志が形成するきっかけが聞き手である。
- ii. 聞き手に行為の実行や事態の実現を約束する発話の機能を持つ。
- iii. 行為の実行や事態の実現を未来のある場面に預け、曖昧な意志表現となる。

意志のモダリティを表す「会」は、日常生活では頻繁に使われる表現である。また、「会」は話し手の意志を表す時に果たしている発話の機能と効果がほかの同類の表現にあまり見られない。この二点から、「会」の話し手の意志を表す用法を積極的に認めるべきではないかと思われる。更に、意志のモダリティを表す「会」の意味機能を明らかにしたことは、「会」の意味機能の全体像を考えることにも有意義である。今後は、話し手の意志を表す「会」に意味上最も近い「予測、未来」を表す「会」の用法について考察をし、「会」の意味機能の全体像を検討していきたい。

〔注〕

- (1) 出典が示されていない用例は筆者による作例である。他も同様。
- (2) 東野圭吾『白夜行』（集英社、2002）他も同様。
- (3) 小川洋子『博士の愛した数式』（新潮社、2005）他も同様。
- (4) 片山恭一『世界の中心で、愛を叫ぶ』（小学館、2004）他も同様。
- (5) 敬語形式や終助詞の共起が許容される。
- (6) ここでは、助動詞が用いられず動詞そのままの形を無標的なものとし、助動詞（モーダル動詞）が用いられる場合は有標的なものとする。
- (7) 名詞や介詞構造などの成分の補充を指す。
- (8) 小川洋子著・李建云译《博士的爱情算式》（人民文学出版社、2005）他も同様。
- (9) 東野圭吾著・刘姿君译《白夜行》（南海出版社、2008）他も同様。
- (10) 日本語訳は呂叔湘編、牛島徳次監訳・菱沼透訳『中国語用例辞典』（東方書店 1992年）によるものである。
- (11) 『曹社長の18人の秘書たち』（《曹老板的18个秘书》）2005年。『聴く中国語』2012年1月号～2014年9月号に連載、訳文は同誌によるものである。他も同様。
- (12) 『田教授家の28人の家政婦さん』（《田教授家的二十八个保姆》）1999年。『聴く中国語』2010年4月号～2012年1月号に連載、訳文は同誌によるものである。他も同様。
- (13) 片山恭一著・林少华译《在世界中心呼喊爱》（青岛出版社、2012）他も同様。
- (14) 孫(2014)では「中国語の動詞無標形自体は、非現実性を持っておらず、モーダルな意味も備えていない。未来時制を表す成分と共起していない動詞無標形はただ抽象概念を表す素材表現に過ぎない。従って、動詞無標形は意志表現の「スル」の対訳形式としてつとめるため、未来時制を表す時間副詞「再」「就」やアスペクト表現「了」や語気助詞「吧」を付け加えてはじめて意志表現として機能するのである。これらの表現によって、動詞基本形は非現実性を帯びるようになり、意志表現として成り立つわけである。」とされている。

〔参考文献〕

<中国語文献（ピンインローマ字順）>

刘月华・潘文娉・故韡1983『实用现代汉语语法』外语教学与研究出版社
呂叔湘 1999『现代汉语八百词・增订版』商务印书馆

- 彭利贞 2007 『现代汉语情态研究』中国社会科学出版社
吳春生 2011 「助动词“会”的情态发展」『现代汉语』 pp.63-66
王鹏・马贝加 2011 「助动词“会”的产生和发展」『中南大学学报』第17卷第5期 pp.233-238
<日本語文献(五十音順)>
相原茂・石田知子・戸沼市子 1996 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』 同学社
安達太郎 1999 「意志のモダリティと周辺形式」『広島女子大國文』 16
安達太郎 2002 第1章 「意志・勧誘のモダリティ」『新日本語文法選書4モダリティ』 くろしお出版
王其莉 2015 「中国語の“会”に関する一考察——『I. 能力』『II. 長じる』ではない第Ⅲ類の“会”
を中心に」『日中言語対照研究論集』 第17号 pp.135-153
王其莉 2016 『判断のモダリティに関する日中対照研究』 ひつじ書房
孫樹喬 2014 『意志表現をめぐる日中対照研究』 神戸市外国語大学博士論文
仁田義雄 1991a 「意志の表現と聞き手存在」『国語学』 165集
仁田義雄 1991b 『日本語のモダリティと人称』 ひつじ書房
益岡隆志 2002 「定表現と非定表現と不定表現」『国語論究10 現代日本語の文法研究』 明治書院
益岡隆志 2007 『日本語モダリティ探究』 くろしお出版
森山卓郎 1990 「意志のモダリティについて」『阪大日本語研究』 2
呂叔湘編、牛島徳次監訳・菱沼透訳 1992 『中国語用例辞典』 東方書店

【付記】

本論文は2016年11月19日に行われた佛教大学中国言語文化研究会第32回研究発表会における口頭発表に加筆及び修正を加えたものである。

(そん じゅきょう 中国学科)
2017年11月15日受理